令和7年度

幼稚園だより　１２月号

文京区立小日向台町幼稚園

「晩秋の自然の中での関わり」

園長　　小岩井　　聡

昨日、年長組と年中組が小石川植物園まで遠足に行きました。朝、登園後、年長組と年中組が手をつなぎ、小石川植物園まで歩いていきます。

初めは手をつないで園外に出る緊張感ももちつつ、丸の内線の高架の下では、声が響くことを楽しんで、みんなで大声を出して歩いたり、信号のある道では、早歩きをして、全員が渡り切れるようにしたりして、歩いて行きました。頑張って歩いたおかげで予定通り植物園に到着。そこで、現地集合のたんぽぽ組と合流しました。みんなで元気に入口から続く坂を上っていき、植物園探検のスタートです。

前半は学年ごと、子どもたちの興味や体力などを考慮して行動範囲を決めて散策をしました。暖かな日差しの中で、落ち葉に触れたり、葉の様々な形や色、においに不思議さや面白さを感じたりしながら園内を回ってきました。

また、弁当後は３学年混合でグループを作り、そのグループごとに、落ち葉の色比べ体験やクスノキの周りをグループ全員で手をつないで囲んでみる大きさ調べ、つつじ園のかくれんぼなどを楽しみました。どのグループも満面の笑顔で楽しんでいる様子が見られました。３学年が関わり行動している様子を見ていると、年長組に対して、年中や年少の子たちは、絶大な信頼をしているなと感じました。先週はサツマイモ収穫の芋汁パーティーで、包丁を使って料理をしてくれた、お兄さん、お姉さんであり、先月には、幼稚園を「さくら・すみれゆうえんち」に変身させて、招待してくれたお兄さん、お姉さんなのです。年中・少の子どもたちには、とても大きな存在になっているのです。逆にそれが、年長組の子どもたちにも、自身の成長を自覚させ、より、お兄さん・お姉さんになろうという意欲にもつながっていきます。ご家庭では、「まだまだ甘えん坊で」とおっしゃる保護者の方も多いかもしれませんが、今回の遠足では、しっかりとそういう姿を見せてくれていました。

実は、この時期に全学年の遠足を行った理由として、２月に行っていた年長児との「お別れ遠足」が、寒い時期でもあり、戸外の活動が難しいこと、植物園も見ごろの植物が少ないことなどから、この時期に変更したのでした。お別れという意識をもつには早すぎる時期ですが、実際に行ってみて、子どもたちにとってのメリットは十分にあったなと感じます。ただ、我々教職員の反省として、行事の日程が詰まりすぎていなかったか、子どもたちの学びにつなげられるような活動として、十分に余裕をもって取り組めていたか、など課題も出されました。

今後も、子どもたち同士のつながりの中で、自身の成長を感じたり、憧れにつながったりするように、また子どもたち一人一人の学びのつながるように行事を考えたいと思います。

令和７年も残すところ、あとひと月。今年も、本園の教育活動にご協力いただきました保護者、地域の皆様に感謝いたします。来年も子どもたちの「笑顔と元気が輝く小日向台町幼稚園」となりますよう、教職員一同邁進してまいりますので、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。最後になりますが、皆様、どうぞよいお年をお迎えください。